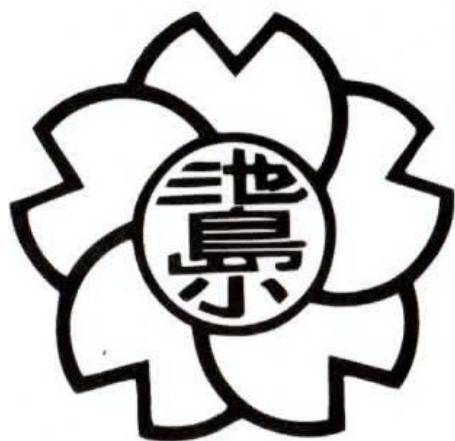


令和３年度

運営に関する計画

総括シート・目標別シート



大阪市立池島小学校

大阪市立池島小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校には、経済的に厳しい状況に育ち、生育の過程での暖かい育みが十分行われず、入学後その分を補充する必要がある児童が多く見られる。この状況の中で、児童が自尊感情を高め、自己と共に他者を大切にする心すなわち自己有用感を育てることは、喫緊の課題である。そのために、本校では、

- ① 「学力の向上」
- ② 「学校及び家庭での基本的な生活習慣の定着」
- ③ 「心の教育の推進」

の 3 点を本校教育推進の中核とし指導を進めている。児童の生活実態や課題を把握し、学力の基礎基本となる方向性を導き出し、本校教職員の地道な努力と、地域住民・保護者・児童養護施設職員の方々との協力により以下のような成果をあげている。

① 「学力向上」にかかわって

新小学校学習指導要領において各教科等を貫く重要な視点である「言語活動の充実」とともに、漢字検定に向けた主体的な学習の習慣化を図り、算数科の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる取組を実践してきた。そのために、I C T 機器を効果的に活用したり、主体的・対話的な学習法を取り入れたりした「わかる授業の展開」を推進してきている。また、わかる授業の展開にかかわって。習熟度別少人数授業・個に応じた指導・放課後学習(池島タイム)等「わかるようになる授業・できるようになる授業」を積み重ねてきた結果、以下のような成果をあげることができた。

「すすんで漢字学習に取り組んだ」と回答した児童の割合

平成 29 年度 (10 月) 80% (1 月) 93% 平成 30 年度 (10 月) 85% (1 月) 82%

令和元年度 (10 月) 86% (1 月) 79% **令和 2 年度 (10 月) 88% (1 月) 91%**

「調べ考えたことを文章にまとめることをがんばった」と回答した児童

平成 29 年度 (10 月) 75% (1 月) 66% 平成 30 年度 (10 月) 80% (1 月) 81%

令和元年度 (10 月) 77% (1 月) 74% **令和 2 年度 (10 月) 88% (1 月) 91%**

「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した児童の割合

平成 29 年度 (10 月) 92% (1 月) 84% 平成 30 年度 (10 月) 85% (1 月) 87%

令和元年度 (10 月) 86% (1 月) 82% **令和 2 年度 (10 月) 89% (1 月) 95%**

加えて、「家庭学習の習慣化」は平成 25 年度から港区教育行政の重要課題の一つであり、本校でも『港区版 家庭学習の手引き』を活用し、組織的に家庭学習の習慣を身に付けさせるように取り組んでいる。

さらに、全国学力学習状況調査において、平成 26 年度すべての調査においての無回答率は全国平均を下回り、平成 27 年度も無回答率は全国平均に近い状況であった。また平均正答率は平成 24 年度から平成 27 年度は連続して全国平均との差を縮めている。また平成 27・29 年度はすべての調査において標準化得点が 95 点以上である。これらの状況を、本校でのこれまでの地道な指導の成果の兆しととらえている。

上記のような学力向上の兆しは認めるものの、平成 21 年度から 31 年度までの全国学力学習状況調査の結果、平成 28 年度から令和 2 年度までの大阪市学力経年調査の結果から見ると、本校児童の「学力」は、上昇傾向にあるものの、大阪市の標準得点と比較して、95 ポイントと低い状態を脱するには至っていない。

算数、国語の基礎基本事項を確実に身に付けさせ、言語活動、数学的活動を一層充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、学ぶ意欲を高める。同時に、記録、要約、説明、論述といった言語活動を発達の段階に応じて行うことなどの言語活動の能力の育成を図る必要がある。

② 「基本的な学校や家庭生活習慣の定着」にかかわって

学校においては「朝の挨拶」「時間の厳守」「安全な生活態度」を徹底し成果をあげてきた。登校時の挨拶の習慣化や、時刻の確認による次の行動への移行、の定着を図っている。また、学校安心ルールの適切な運用により、児童の意識の変化がみられるようになっている。

「学校のルールの遵守」について肯定的な回答をした児童の割合

平成 29 年度 88%	平成 30 年度 (10 月) 92% (1 月) 94%
令和元年度 (10 月) 89% (1 月) 90%	令和 2 年度 (10 月) 93% (1 月) 96%

一方で近年の児童の実態から生活環境と学校・家庭・地域・社会等との関係が希薄になっており、地域子ども会や各種行事への参加者が固定化、減少化する傾向が見られる。また、全国学力学習状況調査の結果、「平日テレビゲーム(PC・携帯式・スマホ等)を 3 時間以上する」「平日テレビを 3 時間以上みる」児童も全国平均よりも多い。家庭や地域との関係の深さは学力と正の相関関係が強く、テレビ等の視聴時間の長さは学力と負の相関関係があることが明らかとなっている。

③ 「心の教育の推進」にかかわって

「学級・学校がいじめを許さない安心できる場所だ」と回答した児童の割合

平成 29 年度 (10 月) 70% (1 月) 64%	平成 30 年度 (10 月) 76% (1 月) 81%
令和元年度 (10 月) 79% (1 月) 74%	令和 2 年度 (10 月) 82% (1 月) 81%

「いじめを許さない学校文化」にむけて、「いじめアンケート」や日常の児童理解を通して、いじめの未然防止や早期発見解決に努めている。日々の児童間の出来事の積極的な把握やアンケート結果の聞き取りにより担任が事実確認を行い、指導を重ね、いじめに関する早期解決を図るようにしている。また、考え議論する道徳科の授業の実践や児童会児童による「いじめをなくそう」という声の高まり、参画もよい成果につながっていると考える。しかし、全校児童の 20%程度が「学校が安心できない」ととらえていることを重く受け止め、今後も家庭、児童養護施設との連携を続け、丁寧に取り組んでいく必要がある。また、「学校安心ルール」の組織的運用を図り、教職員が同じ価値基準で児童の心の教育に当たる必要がある。

「自分には一つ以上よいところがある」と回答した児童の割合

平成 29 年（10 月）75%（1 月）66%

平成 30 年（10 月）81%（1 月）81%

令和元年度（10 月）68%（1 月）76%

令和 2 年度（10 月）82%（1 月）83%

児童が背負っている生活環境の差が教育格差となり児童の今もっている学力の現状として表れているのは事実である。しかし、それは児童の未来の学力を示しているわけでは決してない。公教育において重要なのは、未来を生きるための学力、すなわち「生きる力」を身に付けさせられる教育を提供するという同じベクトルをもった教職員全員の決意である。

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』には、「生きる力」とは「変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい時代を担う子どもたちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力」であると示されている。情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓ひらき、未来の創り手となることができるよう、教育を通して必要な力を育んでいくことを重視している。

社会情勢も大きな変革のうねりの中にあり、政府が実現を目指す「未来投資戦略 2017－Society 5.0 の実現に向けた改革－」による変革後の 2030 年の日本の姿が明確にされている。「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会のさまざまなニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」そのような社会を実現するのは、目の前の児童にほかならない。その児童に求められているのは、しなやかなマインドセットであり、内発的動機付けに支えられた資質・能力の向上である。心理学者のロバート・スタンバーグは、高度な専門性を身に付けられるかどうかの最大の決め手は、「あらかじめ備わった固定的な能力ではなく、目的に即してどこまで能力を伸ばしていけるかにある。」と提唱している。児童の未来の学力は、児童自身の中に存在しているということである。

児童の実態や現在までの本校教育の成果と課題、社会情勢を踏まえ、さらに大阪市教育振興基本計画を軸として新たな本校教育の推進を図る。学校経営理念として「モチベーション 3.0（内発的動機付け）」すなわち、興味、好奇心、才能の開花、自己の成長、キャリア意識、達成感、他の仲間、更には地域社会への貢献意識を中心にした動機付け法による児童の成長を掲げ、実践化を図る。

人には普遍的な人間の願望として、能力を発揮したいという「有能感」、自分でやりたいという「自律性」、人と関係を持ちたいという「関係性」という 3 つの心理的要求が備わっている。この心理的要求が満たされている時、動機づけられ生産的になり幸福感を感じる。すなわち人は、環境が整いさえすれば、興味をだく能力（内発的動機付け）を発揮する。学校は、児童の興味を抱く能力を最大限に発揮させられる場になる必要がある。そこで、児童の学ぶ場としての学校の環境を整え、最大限に能力を発揮できるように教育を提供する。具体的には、「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」並びに「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」に取り組み、本校児童の未来の学力の向上を目指す。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 2021 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 2021 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童(生徒)の割合を 90%以上にする。
- 2021 年度末に、本校実施のアンケート調査で、「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 2021 年度末に、本校実施のアンケート調査で、「自分には 1 つ以上よいところがある。」と回答する児童の割合を 80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 2021 年度末に、本校実施のアンケート調査で、「漢字学習をがんばった」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 2021 年末までに漢字検定試験合格者を全校で 7 割以上にする。
- 2021 年度末に、本校実施のアンケート調査で、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を 90%以上にする
- 2021 年度末に、本校実施のアンケート調査で、「計算の学習を頑張った」と回答する児童を 90%以上にする。
- 2021 年度末に、本校実施のアンケート調査で、「自分で考えたことを文章に表す活動を頑張った」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 2021 年度末に、本校実施のアンケート調査で、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する児童の割合を 80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和 3 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。(H29 は 75 件 100% H30 は 92 件 100% 令和元年度は 85 件 100% **令和 2 年度は 35 件 100%**)
- 令和 3 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。(H29 は 87% H30 は 88.5% R1 は 90% **R2 は 96%**)
- 令和 3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(H29 は 0 件) (H30 は 0 件) (R1 は 0 件) (**R2 は 0 件**)
- 令和 3 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。(H29 は 1 件) (H30 は 1 件) (R1 は 0 件) (**R2 は 1 件**)

学校の年度目標

○本校実施のアンケート調査で「学校や学級のきまりを守っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。

(H29 は校内調査 91%88%) (H30 は校内調査 92%94%) (R 1 は校内調査 89%90%)

(R2 は校内調査 93%96%)

○たてわり班活動・仲間づくり・自他のよさの尊重を一層推進する。本校実施のアンケート調査で、「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」と回答する児童の割合を80%以上にする。

(H29 は 70%・64%) (H30 は 76%・81%) (R1 は 76%・74%) **(R2 は 82%・81%)**

○校内調査で、「自分には1つ以上よいところがある。」と回答する児童の割合を80%以上にする。

(H29 は 75%・67%) (H30 は 81%・81%) (R1 は 68%・76%) **(R2 は 82%・83%)**

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
平成 30 年度		91.8	93.6	92.4
令和元年度	95.6	97.2 ○	90.5 ▼	95.8 ○
令和 2 年度	98.8	96.6 ○	96.0 ▼	96.1 ○

※同一集団の5年生時の下降傾向が課題である。

○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。

	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
平成 30 年度		47.8%	26.7%	41.2%
令和元年度	15.0%	30.0% ○	52.0% ▼	28.1% ○
令和 2 年度	25.0%	11.1% ○	25.0% ○	25.7% ○

※同一集団中20%程度になるようにめざす。

○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。

	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
平成 30 年度		8.7%	3.3%	5.9%
令和元年度	5.0%	10.0% △	0 ▼	18.8% ○
令和 2 年度	25.0%	5.6% ○	5.0% ▼	20.0% ○

※4年、5年の算数科での上昇をめざす。

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

	H30 入学 3 年	H29 入学 4 年	H28 入学 5 年	H27 入学 6 年
平成 30 年度			65%	80%
令和元年度		73%	83%	68%
令和 2 年度	75%	73%	74%	75%

○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の向上委に向けて、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、一昨年度より 2 ポイント (cm) 向上させる。

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	↑16.64	↑21.25	↓30.25	↓39.88	↓48.00	↑9.14	↓146.56	↑28.11	↓51.50
大阪市	16.40	19.40	32.70	39.96	48.15	9.41	149.30	21.44	52.53
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
女子	↑16.50	↓16.88	↓35.76	↓37.13	↓36.87	↓9.69	↓133.56	↑17.53	↓54.54
大阪市	16.15	18.51	37.54	38.38	38.97	9.65	142.68	13.31	54.47
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59

全国以上 ↑

全国以下 ↓

学校の年度目標

○本校実施のアンケート調査で、「漢字学習をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

(H29 は 80%・83%) (H30 は 85%・82%) (R1 は 86%・79%) **(R2 は 88%・91%)**

○本校実施のアンケート調査で、「文章を書く活動を頑張った」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

(H29 は 75%・66%) (H30 は 80%・81%) (R1 は 87%・74%) **(R2 は 83%・90%)**

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

○本校実施のアンケート調査で、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

(H29 は 92%・84%) (H30 は 85%・87%) (R1 は 86%・82%) **(R2 は 89%・95%)**

○計算力の向上にむけて年度初めと年度末に実態調査をする。児童の陥りやすい課題を明確にし、指導に活かす。

○本校実施のアンケート調査で、「計算の学習を頑張った」と回答する児童を 85%以上にする。

問題解決型の授業改善、池島タイムの運用を工夫する。

(H29 は 88%・86%) (H30 は 85%・81%) (R1 は 84%・81%) **(R2 は 84%・94%)**

○本校実施のアンケート調査で、「いろいろな運動をしている」と回答する児童の割合を 80%以上にする。

(R1 は 78%・81%) **(R2 は 83%・83%)**

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立池島小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】 全市共通目標(小・中学校) ○令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。(H29は75件100% H30は92件100% 令和元年度は85件100% 令和2年度は35件100%) ○令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。 (H29は87% H30は88.5% R1は90% R2は96%) ○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(H29は0件) (H30は0件) (R1は0件) (R2は0件) ○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童(生徒)の割合を前年度より減少させる。(H29は1件) (H30は1件) (R1は0件) (R2は1件) 学校の年度目標 ○本校実施のアンケート調査で「学校や学級のきまりを守っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。 (H29は小学校学力経年調査87.0%・校内調査91%88%) (H30は小学校学力経年調査81.0%・校内調査92%94%) (R1は小学校学力経年調査83.2%・校内調査89%90%) (R2は小学校学力経年調査 97%・校内調査93%96%) ○たてわり班活動・仲間づくり・自他のよさの尊重を一層推進する。本校実施のアンケート調査で、「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」と回答する児童の割合を80%以上にする。 (H29は70%・64% H30は76%・81% R1は79%・74% R2は82%・81%) ○校内調査で、「自分には1つ以上よいところがある。」と回答する児童の割合を80%以上にする。 (H29は75%・67% H30は81%・81% R1は68%・76% R2は82%・83%)	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校教育環境の実現】 ○「チャイムの合図を守る」「廊下階段右側歩行」などの学校のきまりに基づく強調週間を年に2回設定する。 きまりは、「①チャイムの合図できりかえよう、②廊下は右側を歩こう」の2つに絞る。 ○あいさつ運動週間を年に2回設定する。	

指標 ○本校実施のアンケート調査で、「学校や学級のきまりをまもっている」と肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 (H30 は小学校学力経年調査 81%・校内調査 92%94%) (R1 は小学校学力経年調査 83.2%・校内調査 89%90%) (R2 は小学校学力経年調査 97.1%・校内調査 93%96%) ○本校実施のアンケート調査で、「すすんであいさつをしている」と肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 ○児童会が中心となってたてわり班を生かす集会を行うことで、児童が他学年とも交流、活動し、仲間づくりをすすめる。(いけっこまつり・たてわり集会・なかよしタイム) ○違うことのよさをお互いに認めることで、相手を尊重できるような授業に取り組む。 ○「ええとこみつけ」の活動を各学級で取り組む。(「ええとこみつけカード」を使用する) ○当該学年の教員で、S K I Pの児童生徒ボードを活用し、児童一人につき学期に1つ以上の「いいとこみつけ」を入力し、それを元に児童にフィードバックする。	
指標 ○本校実施のアンケート調査で、「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」と回答する児童の割合を 80%以上にする。 (H29 は 70%・64% H30 は 76%・81% R1 は 79%・74% R2 は 82%・81%) ○各学年、1 回以上人権学習に取り組む。 ○本校実施アンケート調査で「友だちのよいところをみつけることができた」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(R2 は 82%・83%) ○学期に1つ以上は児童生徒ボードに「いいとこみつけ」が入力されている。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
改善点	

大阪市立池島小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標 ○小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、前年度より 2 ポイント (CM) 向上させる。 学校の年度目標 ○本校実施のアンケート調査で、「漢字学習をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 (H29 は 80%・83%) (H30 は 85%・82%) (R1 は 86%・79%) (R2 は 88%・91%) ○本校実施のアンケート調査で、「文章を書く活動を頑張った」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 (H29 は 75%・66%) (H30 は 80%・81%) (R1 は 87%・74%) (R2 は 83%・90%) ○読書タイムを設け、年間読書目標を立てさせる。 ○本校実施のアンケート調査で、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(H29 は 92%・84%) (H30 は 85%・87%) (R1 は 86%・82%) (R2 は 89%・95%) ○計算力の向上にむけて実態調査をし、課題を明確にし、指導に活かす。 ○本校実施のアンケート調査で、「計算の学習を頑張った」と回答する児童を 80%以上にする。 (H29 は 88%・86%) (H30 は 85%・81%) (R1 は 84%・81%) (R2 は 84%・94%) ○本校実施のアンケート調査で、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する児童の割合を 80%以上にする。 (参考「運動することが好きだ」 H29 は 75%・78% H30 は 76%・77%) 「いろいろな運動に挑戦した」 R1 は 78%・81%) (R2 は 83%・83%)	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○言語力育成のための基礎となる読書、漢字の読み書きをする朝学習の時間を設定する。 ・全校で漢字検定に意欲的に受検できるように児童への働きかけの工夫をする。(模試の実	

施や教材、呼びかけポスター掲示など) ・自分の考えや学習してわかったことを進んで文章にまとめられるよう、各教科で文章を書く指導を進める。	
指標 ○本校実施のアンケート調査で、「漢字学習をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(H29 は 80%・83%) (H30 は 85%・82%) (R1 は 86%・79%) (R2 は 88%・91%) ○本校実施のアンケート調査で、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(H29 は 75%・66%) (H30 は 80%・81%) (R1 は 87%・74%) (R2 は 88%・91%)	
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○習熟度別少人数授業や個に応じた指導に取り組む。 ○授業用パソコンや一人一台端末の活用を取り入れ、工夫した授業づくりをする。 ○「活用する力」の育成を意識して授業を組み立てる。 ○池島タイムを実施する。	
指標 ○本校実施のアンケート調査で、「授業はタブレット、パソコンを使用するなど、工夫して、わかりやすい」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(H29 は 92%・84%) (H30 は 85%・87%) (R1 は 86%・82%) (R2 は 89%・95%) ○経年調査の全教科において、活用面でのポイントを 4 ポイント以上あげる。 ○計算力の向上にむけて実態調査プリントに取り組み、課題を明確にし、指導に活かす。 ○本校実施のアンケート調査で、「計算の学習を頑張った」と回答する児童の割合を 80%以上にする。(H29 は 88%・86%) (H30 は 85%・81%) (R1 は 84%・81%) (R2 は 84%・94%)	
取組内容③【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○児童が体を動かす、残さず食べる、手を洗うよう教職員や委員会児童が呼びかける。 ○体育授業を充実させるために、学年ごとに授業づくり・場づくりを記録する。 ○「なわとび月間」や「かけ足月間」を設定し、外で体を動かす習慣化を図る。 ○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、本校児童の課題を明らかにする。	
指標 ○基本的生活習慣が身についたか、年に 2 回実態調査をする。 ○各学年で行った授業づくり・場づくりをファイル化して次年度に引き継ぐ。 ○本校実施のアンケート調査で、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(R2 は 83%・83%) ○年度末に全国体力・運動調査、運動習慣調査の結果を分析し全教職員に周知する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
改善点	